

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

（1）大学・学科の設置理念

①大学

本学は、高志（こし）の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づき、自律と創生を全学の理念に掲げている。日本海側ラインの中心新潟に位置する大規模総合大学として、環東アジア地域を基点に世界を見据え、教育と研究及び社会貢献を通じて、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的としている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

総合学術研究科は、現代における科学の発展、持続的で共生可能な人類社会の形成、多様性に富んだ文化の構築に向けて、人文科学、社会科学または自然科学に関する高度な専門的知識、及び幅広い「知」の統合のための学際的素養を礎として、独創性豊かな優れた研究能力を備え、自ら設定した「問い」を探究し課題を解決できる能力を有した人材の育成を目的とする。

（2）教員養成の目標・計画

①大学

本学は、自律と創生の教育理念のもとで、現代社会の教育課題に対応できる高度な教科専門性と教育実践性を統合した資質・能力を持つ教員養成を目的としている。そのため「総合大学における教員養成」を特色に、理論と実践のバランスある教員養成を全学的体制のもと構築している。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

総合学術研究科は、専門分野の知識及び学際的素養を備え、自ら課題を発見し探究する能力を持つ学際性豊かな知見を有する総合力を兼ね備えた教員養成を目的としている。それを達成するために、人文学部・法学部・経済科学部・理学部・工学部・農学部および創生学部の7学部における学士課程教育との接続及び連続性を踏まえつつ、伝統的で確立した学問分野を基盤として、より深化させて新たな発見を目指す「専門深化型学位プログラム」と、学際性を志向して新たな学問分野を切り開く、新潟大学大学院の個性的な学位プログラムである「新潟学際型プログラム」の二つの学位プログラム群を編成し、高度な専門知識、及び幅広い「知」の統合のための学際的素養を礎とした学際性のバランスを考慮した、独創性豊かな教育・研究を実施する。

人文学部・法学部・経済科学部・創生学部を母体とする人文社会科学専攻（修士課程）は2つの「専門深化型プログラム」（人間文化科学プログラム、現代社会科学プログラム）からなり、さらにいくつかの「分野」に整理されることで、学際的視野の拡大と専門的知見の深化の双方を、バランスのとれたかたちで探究できるように構成されている。

理学部・工学部・農学部及び一部の創生学部を母体とする自然科学専攻（修士課程）の「専門深化型学位プログラム」には、物質創成・基礎科学プログラム、システム創成科学プログラム、生命環境・食料科学プログラムの3つの学位プログラムが、「新潟学際型学位プログラム」には、情報社会デザイン科学プログラム、フィールド科学プログラム、カーボンニュートラル融合科学プログラムを含む6つの学位プログラムがある。各学位プログラムとも、研究科共通科目としてトランスファラブルスキルの修得に重点をおく学際的基盤科目群に加え、学問分野の体系に即した複数科目によって構成された学位共通科目群、具体的な研究及び課題解決に取り組む上で必要な専門知識・スキルを修得する演習科目を含むプログラム専門科目群、これらの知識を統合し課題解決に取り組む課題研究を組み合わせることで、広さと深さを両立する柔軟かつ体系的な教育課程を編成してい

る。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

・人文社会科学専攻

①中専免（国語）及び高専免（国語）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する人間文化科学プログラムの学生は、日本及びアジアの言語・文学に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「日本社会・言語文化分野科目群」およびその発展である「人間文化科学プログラム専門科目群」から必要な授業科目を履修しつつ、研究課題が定まった1年次後半から順次開講される課題研究II-A（日本語文化）、同III-A、同IV-Aにおいて、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、日本及びアジアの言語・文学に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

②中専免（社会）及び高専免（地理歴史）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する人間文化科学プログラムの学生は、日本の歴史や地理、またアジアの歴史、西洋の歴史に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「日本社会・言語文化分野科目群」、「東アジア社会・言語文化分野科目群」、「欧米社会・言語文化分野科目群」のいずれかの科目群およびその発展である「人間文化科学プログラム専門科目群」から必要な授業科目を履修しつつ、研究課題が定まった1年次後半から順次開講される課題研究II-A（日本社会文化）、同III-A、同IV-A、課題研究II-A（東アジア社会文化）、同III-A、同IV-A、課題研究II-A（欧米社会文化）、同III-A、同IV-Aのいずれかの一連の課題研究において、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、日本の歴史や地理、またアジアの歴史、西洋の歴史に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

③中専免（社会）及び高専免（公民）

上記免許の取得を、とりわけ「倫理」分野を専攻しながら目指す学生が主に所属する人間文化科学プログラムの学生は、哲学、倫理学をはじめとして、広く「公民」分野に関する専門的知識を養成する「学位共通科目群」およびその発展である「人間文化科学プログラム専門科目群」から必要な授業科目を履修しつつ、研究課題が定まった1年次後半から順次開講される課題研究II～IVにおいては、「倫理」分野に深く関わる科目である課題研究II-A（思想科学）、同III-A、同IV-Aにおいて専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムカリキュラムによって、哲学、倫理学をはじめとする分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的

知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

④中専免（英語）及び高専免（英語）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する人間文化科学プログラムの学生は、英語に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「欧米社会・言語文化分野科目群」およびその発展である「人間文化科学プログラム専門科目群」から必要な授業科目を履修しつつ、研究課題が定まった1年次後半から順次開講される課題研究II-A（英米言語文化）、同III-A、同IV-Aの一連の課題研究において専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、英語に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

・自然科学専攻

①中専免（数学）及び高専免（数学）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する物質創成・基礎科学プログラムの学生は、数理科学に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「数理科学分野科目群」およびその発展である「物質創成・基礎科学プログラム専門科目群」から必要な授業科目を履修しつつ、1年次から順次開講される課題研究I～IVにおいて、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、数理科学に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

②中専免（理科）及び高専免（理科）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する物質創成・基礎科学プログラム、生命環境・食料科学プログラム及びフィールド科学プログラムの学生は、物理学、化学、生物学及び地学に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「物質宇宙基礎科学分野科目群」「基礎化学分野科目群」およびその発展である「物質創成・基礎科学プログラム専門科目群」、もしくは「基礎生命科学分野科目群」「地質学分野科目群」「自然災害科学分野科目群」およびその発展である「生命環境・食料科学プログラム専門科目群」、もしくは「地球惑星科学分野科目群」「自然共生科学分野科目群」およびその発展である「フィールド科学プログラム専門科目群」のいずれかから必要な授業科目を履修しつつ、1年次から順次開講される課題研究I～IVにおいて、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、物理学、化学、生物学及び地学に関する分野において、学部

段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

③高専免（情報）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する情報社会デザイン科学プログラム of 学生は、情報科学に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「情報工学分野科目群」「データサイエンス分野科目群」「社会システム工学分野科目群」およびその発展である「情報社会デザイン科学プログラム専門科目群」から必要な授業科目を履修しつつ、1年次から順次開講される課題研究I～IVにおいて、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から、こうした体系的な学位プログラムによって、情報科学に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

④高専免（農業）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する生命環境・食料科学プログラム及びフィールド科学プログラムの学生は、農学に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「応用生命・食品科学分野科目群」「生物資源科学分野科目群」「流域環境学分野科目群」およびその発展である「生命環境・食料科学プログラム専門科目群」、もしくは「地球惑星科学分野科目群」「自然共生科学分野科目群」およびその発展である「フィールド科学プログラム専門科目群」のいずれかから必要な授業科目を履修しつつ、1年次から順次開講される課題研究I～IVにおいて、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、農学に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

⑤高専免（工業）

上記免許の取得を目指す学生が主に所属する物質創成・基礎科学プログラム、システム創成科学プログラム、生命環境・食料科学プログラム及びカーボンニュートラル融合科学プログラムの学生は、工学に関する分野の専門的知識を養成する「学位共通科目」として設定された「物質材料科学分野科目群」「素材創成化学分野科目群」およびその発展である「物質創成・基礎科学プログラム専門科目群」、もしくは「先進機械システム分野科目群」、「電子情報通信システム分野科目群」およびその発展である「システム創成科学プログラム専門科目群」、もしくは「都市・環境デザイン分野科目群」およびその発展である「生命環境・食料科学プログラム専門科目群」、もしくは「電気エネルギー総合理工学分野科目群」「熱・化学エネルギー総合理工学分野科目群」およびその発展である「カーボンニュートラル融合科学プログラム専門科目群」のいずれかから必要な授業科目を履修しつつ、1年次から順次開講される課題研究I～IVにおいて、専門的な見地から担当教員の指導を受けることで、自らの研究を進めると同時に、教職の専修免許に必要な専門的知識の理解を

深める事が出来る。知識理解の科目から演習系の科目までも含む、こうした体系的な学位プログラムによって、工学に関する分野において、学部段階における教職課程の履修により養成された資質能力を基盤としながら、最新の専門的知識、指導技術及び関連分野の基礎的素養を修得することにより、学習指導要領における各科目の教育を学校現場で実践できる専門職業人たる教員を養成することを目的として、教職課程を設置する。

様式7号イ

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

① 全学的組織

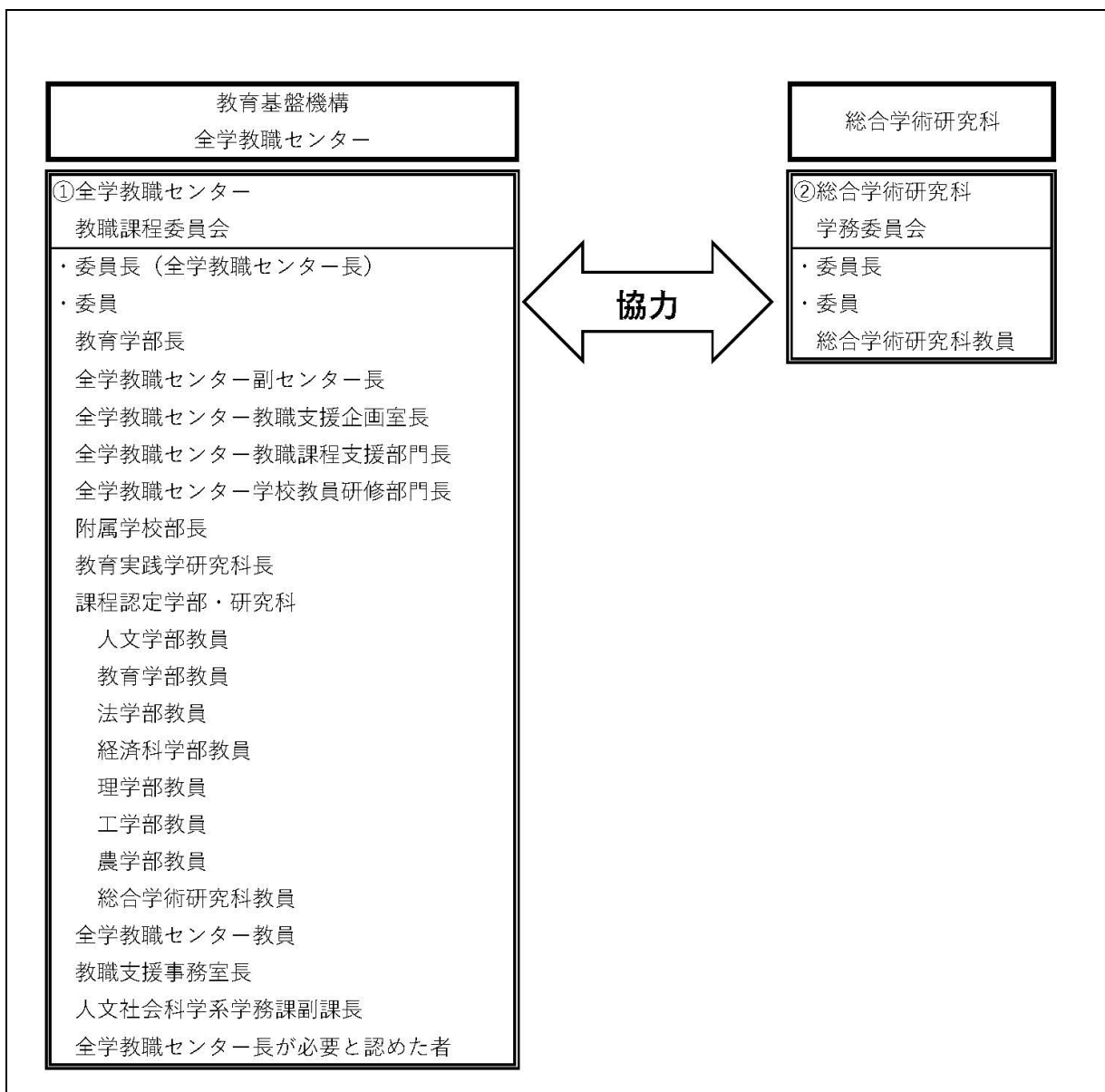
組織名称：	教育基盤機構全学教職センター教職課程委員会
目的：	全学的な教職課程の企画及び運営等を行う。
責任者：	教育基盤機構全学教職センター長
構成員(役職・人数)：	委員長(センター長)1人、委員25人
運営方法：	全学教職センター及び教職課程を有する7学部1研究科から選出された委員で組織され、全学的な教職課程の企画・運営に係る事項、学部間の調整に係る事項等について、年2回委員会を開催し、審議する。

② 総合学術研究科

組織名称：	総合学術研究科学務委員会
目的：	総合学術研究科の教職課程全般及び教育カリキュラムについて審議する。
責任者：	委員長(副研究科長)
構成員(役職・人数)：	委員長1人、委員11人
運営方法：	副研究科長及び各プログラムから選出された委員で組織され、教職課程全般及び教育課程の編成及び改善に関する事項等について、毎月1回、年12回委員会を開催し、審議する。

様式7号イ

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

特になし

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： 特になし

連携先との調整方法：

具体的な内容：

様式7号イ

Ⅲ. 教職指導の状況

全学教職センターにおいて、次の活動を行っている。

1. 教員採用選考検査の受検を希望する学生を対象に各種ガイダンス・特別講座の実施
2. 教員採用選考検査の受検を希望する学生を対象に進路相談、面接、小論文、願書作成、指導案作成等の個別相談指導
3. 介護等体験及び教育実習に関するガイダンスの実施、相談、指導及び助言

総合学術研究科では、各教員研究室及び研究科事務室において、随時、教職課程の履修指導を行っている。